

日々 往来

福永 憲高



先日、新しいお札(日本銀行券)のデザインが公表された。「令和」

和」に向けたカウントダウンが進む今、平成のお札の動きを簡単に振り返ってみたい。

世の中に流通しているお札を全部足すなどの位の金額になると思われるだろうか。例として2018年の名目国内総生産(GDP)は548兆円、同年

平成時代のお札の動き

3月末の家計の金融資産残高は1829兆円だが、お札の合計は専門家の間でもいろいろな議論はどうか。答えは107兆円(19年3月末現在)である。

平成のスタート直前、1988年12月末のお札の合計は32兆円。今の3分の1以下、同年のGDPが393兆円だったことを考えると、お札の増え方は際立っている。ちなみに、日経平均株価は、同年末の3万0159円に対し、今年3月末で2万1205円と、3分の2程度の水準である。

GDPや金融資産の額よりもお札の方が少ないのが不思議に感じられるかもしれない。平成の約30年間にGDPは1.4倍、株価が3分の2に下がっているのに、お札だけ3倍以上増えているのも、不思議に思われるかもしれない。このあたりは専門家の間でもいろいろな議論がある。

「景気が良い」といことはモノやサービスがよく動くということであり、それに伴ってお金が動く。お金があっても動かさないと思気は良くならない。その意味でも「金は天下の回りも」である。「令和」の時代には、これまで以上に金がお金が有効に使われ、活気ある経済となることを期待したい。

新しいお札の発行が近づくにつれて「今のお札が使えなくなる」などといった詐欺が予想されるが、新しいお札が発行された後も今のお札は使えるので、だまされないよう注意を。

(日本銀行鳥取事務所長)